

面震災関連記事のみの抜粋です

中外雑記

臨黄

●妙心寺派 ▽「鉄眼禅師は一切経開版のために全国を行脚して集めた募財を二度まで、洪水や大飢饉による難民の救済に全て投げだした。今の仏教界もせめて、“儀式仏教”の体面をまもるためにかけている経費を震災救援に回せないものか」と横江令澄養徳院住職。薪流会が大地震被災地の西宮で実施したぜんざいの炊き出しを同会会長として陣頭に立って指揮したが、避難所で不自由な生活を強いられている被災者の姿を目の当たりにして、改めて「上求菩提、下化衆生」の立場からの社会的貢献の必要を痛感した、という。「少なからぬ寺がプチ・ブル的な経済環境にあるのは事実。そうした環境で、実践なき禅文化に安住しては、貴族仏教と謗られても反論できぬ。平時は布施で修行させてもらっているわけだから、こうした時こそ弱者救済に捨身の努力をしなければ」と

▽静岡東教区（水野秀和所長）は兵庫県南部地震で本堂が全壊するなど大被害を受けた寺院を対象に、教区内で義援金募財を実施することを検討している。これは宗務本所が実施している被災者救援募金と別途に、教区内寺院を対象として寺院復興の寄付を呼びかけようというもの。「震災では寺院、檀徒ともにダメージを受けた。寺の復興は檀徒が負担することになるが、今度のようなケースではいったいつになったら再建できるか…。同じ宗門の者として少しでも支援すべきではないか」と水野所長。ただ、下旬に定期宗議会が招集されるため、教区選出の議員を通じて宗門として本格的な被災寺院復興援助を提案し、もし宗務本所が募財に乗り出すことが決まれば、これに合流する方針という

▽募財対象を教区内寺院に絞る（花園会員には直接には呼びかけない）という基本方針の他には目標額など具体的内容も未定だが、既に教区幹部十人を推進スタッフに選び、宗務所の特別会計から事務費として十万円を確保する準備も整えている。宗議会の結論次第で教区単独でも本山一本化でも、直ちに募財態勢に入ることが可能なようだ。「三月六日に教区の住職研修会があるので、いずれにしてもそれまでには趣意書を出せるようにする」（水野所長）という。

天台

震災の臨宗に全議員出席

●天台宗 この度の兵庫県南部地震の救援復興支援を主題とする臨時宗議会が、九日に開かれた。地震の影響で交通事情が悪かったものの、全国から全議員が出席した。兵庫教区の齋川観弘議員の顔も見られた。齋川議員の自坊は神戸市垂水区で、被害は比較的軽微だったが交通の便が悪いため、宗会前々日の七日から姻戚の坂本・金蔵院（小森文道住職）に滞在し、七日の大法会企画委員会にも出席していた

▽寛永寺を初め、目黒不動瀧泉寺、深大寺の各寺の節分会に、東京教区仏青が境内に立ち、震災の義援金を群参に呼びかけた。また、寛永寺では、既に東京教区、一隅運動本部、読売新聞救援窓口に各々百万円を届けている。

[那智山青岸渡寺]

▽[那智山青岸渡寺（高木亮享住職、和歌山県東牟婁郡那智勝浦町那智山八）]では、兵庫県南部地震に対し、一月二

十三日に日本赤十字社に三百万円、天台宗務庁の対策本部に百万円を送金している。高木住職は、「何かのお役に立てれば」と語っている

●**天台寺門宗** ▽九日、小林宗務総長は宗内で募っている兵庫県南部地震の義援金約三十四万円をNHK大津放送局へ寄せた。一月二十二日から宗会議員や支所長を通じて全末に呼びかけており、三日には約三十一万円を同放送局へ寄託。小林宗務総長は二十五、二十六日の定期宗会で再び協力を要請し、総額二百万円を目標にしている。

広島

涅槃会でチャリティー演奏

●**仏教会** 尾道仏教会（会長＝季平博道浄土真宗本願寺派法光寺住職、事務局＝尾道市西久保町一ノ五、時宗正念寺内）は、十五日、尾道市東久保町二〇ノ二八の真言宗泉涌寺派浄土寺（小林海暢住職＝泉涌寺派管長）・方丈の間（国宝）で、兵庫県南部地震の義援チャリティー箏曲演奏会を開く。演奏は、国内外で活躍している箏ソリストの六ツ森恵子さん。演奏に先だって同寺宝物殿で、涅槃会法要が営まれる。法要は午後四時から。箏の演奏会は午後六時半から。プログラムは「ときめき」「火垂る」「紺碧く」など五曲。十七弦箏のソロや箏のアンサンブルもある。演奏会の奉賛志納金は二千五百円で、収益金は地震被災者への義援金として、地元の新聞社に寄託される。同仏教会では、毎年二月十五日に様々な趣向を凝らして涅槃会を勤めているが、今年は義援チャリティーとして開催する。

念法真教

●▽神戸念法寺（田幸和住職、神戸市兵庫区駅前通）では、先日の兵庫県南部地震の大きな人的被害は免れたものの、庫裡が十五度ほど傾き、使用は危険だということで、取り壊しの作業が行なわれている。神戸の復興とともに将来新築も考慮されているようだ。同寺は今年開教四十周年を迎えており、五千世帯二万人の信者を抱え、着実な歩みを続けてきた。ちなみに兵庫県下では、豊岡、香住、朝来、但馬などに寺院、教会があるが、地震の影響はみられないようだ。

金光

ネットワーク利用し救援

●**泉尾教会**（三宅歳雄教会長、大阪市大正区三軒家西三ノ八ノ二一）は兵庫県南部地震の被災地神戸で救援活動を連日続けている。救援物資の輸送、炊き出し、医薬品の供給、給水等、隣県に広がる泉尾教会のネットワークを最大限に利用して取り組んでいる。炊き出しは二十二日から連日のように行ない、毎回とん汁、うどんなど二種類約一千食を供給している（**写真は一月二十四日の兵庫区荒田公園での飲み出し**）【**写真は省略**】。炊き出しを行なう場所は交通渋滞の影響で不定で、約十時間かけて辿り着いた場所で行なうなどかなり苦労している。例えばうどん玉に関しでは、一時期大阪からすっかり姿を消してしまい購入もままならない状況だったが、同教会のネットワークを用いて和歌山から仕入れて供給した。医薬品も一般がまとまった数だけ仕入れるのは至難の業であるが、ネットワークを駆使して準備。一月二十五日、中央区の葺合高校の避難所に供給している。同二十八日、二十九日には、長田区の長楽小学校、長田小学校、御蔵小学校、西代中学の各避難所に二日間で六〇〇〇リットルを給水車で供給している

▽同教会では日本人被災者同様に、英字新聞、テレビ、ラジオなどに告知を出し、被災外国人に対する宿泊施設の提供を呼び掛けているが、今のところ受け入れられた外国人はまだない。日本人被災者は数家族受け入れている

▽同教会では前述のように公共に対する救援を行なうとともに、教会関係者が手分けして信奉者宅を一軒々々へ歩いて回り、安否の確認をしながら見舞金を渡す作業も行なってきた。五日までに、ほぼ完了したとのこと

▽同教会のスカウトたちも五日に大阪連盟を通して西宮で救援活動。また、青年会が伊丹市でボランティア活動、壮年男子信徒で構成される「求道会」は神戸市内各区を訪問して義援金を配布。六日には、三宅光雄氏が淡路島の津名役場に町長を訪ね、義援金を手渡し、同地に数百軒ある信徒宅を訪問した

▽アメリカのバークリー・ユニテリアン第一教会から、泉尾教会を通して日本の宗教者の皆様にと、三千ドルの義援金が届けられた。数年前のサンフランシスコ大地震の時に義援金を頂いたお礼とのこと。義援金はW C R P に寄託された。

真言

三宝院や十七会らが協力

●**高野山** 高野山三宝院の飛鷹全隆住職と弟子など同寺関係者、高野山蓮華谷十七会（メンバーは酒屋、食堂、法衣店、大工など様々な職種）の一般ボランティア、高野山大学の学生ボランティア、地元寺院、それに本山職員らが中心となり九日、西宮市の上ヶ原小学校で兵庫県南部地震の被災者のために炊き出しを行なった。高野町の人たちと寺の人たちが協力するこうした救援活動は今回が初めてで、被災者に用意した食事は粕汁とご飯、リンゴなど約四百人分。粕汁に入ったたっぷりの鮭は、弘法寺（佐藤弘念住職・北海道砂川市）から届いた北海道産十匹を使用したという。午後五時半から配りはじめると、「今日は粕汁、いいにおい、おいしそうね」とあるお婆さんは嬉しそうに並ぶなど、とくに風の強い寒い日だったため、あっという間に無くなった

▽今回のボランティアに参加した地元寺院は、理性院（神戸市東灘区）、鷲林寺（西宮市鷲林寺町）、西光院（宝塚市小林）、東光寺（西宮市門戸西町）、西広寺（西宮市段上町）、聖天寺（西宮市上甲子園）など。これらの寺院も全て何らかの被害を受けているにもかかわらず、連日のようにボランティアを続けている。とくに理性院は全壊したあと全焼して跡形も無くなってしまったが、同寺の西藏全祐住職はボランティアを統括するリーダーとなって、寄宿先の東光寺を朝早くに出てから夜まで走り回っている。その一つの励みとなったのが、地震当日すぐに師匠である飛鷹住職が高野山から駆けつけ、励ましてくれたことだったようだ。飛鷹住職は地震以来、被災地のほぼ全域を回り、あるいは東寺の初弘法で義援金の托鉢を行なうなど援助活動に精力的。十三日にはまた三宝院が中心となり神戸で炊き出しをした。

中山寺の惨状に息をのむ

●**東寺真言宗** 本山・東寺の砂原秀遍事務長と森泰長総務部長は八日、兵庫県南部地震（阪神大震災）で、大きな被害を受けた宝塚市の大本山中山寺（石堂恵教長老）、本宗の成就院（喜多川義寛住職）、そして被害は軽微であった大本山清澄寺（坂本光聡法主）を見舞った

▽道路は宝塚市内が渋滞しているが、砂原事務長と森総務部長によると「中山寺では、石堂長老をはじめ、各塔頭をお訪ねして、お見舞いの言葉を述べましたが、大変な被害に言葉を失いました。石堂長老からは、『両親が生きていたらこの惨状に耐えられなかったでしょう』と、言われた。長老の自坊・華蔵院も信徒会館や客殿の被害が大きい。村主康瑞総務部長の自坊・総持院の被害も大きかったが、村主部長は、『自坊は後回し。まず、本山の修復が先決ですよ』と、強く勇んでおられた。本山は本堂、山門に被害が少なく、倒壊した納経所、信徒休憩所の復興工事が行なわれていた」と

▽続いて、清荒神・清澄寺へ。同本山は参道に被害が見られるが、境内は無事。参詣者の実に多いのには驚きで

あったと。このあと、本宗の成就院へ。庫裡の被害が大きく、喜多川住職も忙しく、整理に奔走していたと▽続いて十三日は神戸市須磨区の本本山須磨寺へ。また、本宗寺院の被災寺院も訪れることになっている

法華

誕生寺も被災地を見舞う

●**日蓮宗** 明応・元禄と過去二度にわたる大地震、大津波の天災により、全ての堂宇を失ったことがある千葉県の本山誕生寺（片桐日泉貫首）では、宗門寺院も数多く被災した兵庫県南部地震については「とても他人事ではない」と、先の宗務院からの救援の呼びかけに対し、一月二十七日に行なわれた管内（千葉県南部宗務所）教師大会の席上、義援金二百万円を寄託した。これは日頃、祖師堂で緊急災害に備えて設置している蘇生募金箱の中から拠出したもので、同寺では「少しでもお役に立てば」と話していた。同寺ではさらに、一月二十七、二十八の両日、北口泰順執事が旧誕生寺末の西宮市・浄願寺（富田智妙住職）、神戸市・法蓮寺（内藤慈宣住職＝誕生寺職員内藤慈昇氏の自坊）を含む特に被害が大きかった数カ寺の被災寺院を訪れ、見舞った。現地に赴いた北口執事は「被災後十日を経過しても、報道されている通り、交通手段が悪く、大阪から被災地までは片道四時間かかった。到着してからも、神戸市内では道路の危険物を避けながら徒歩で進むしかなく、浄願寺と法蓮寺は境内堂宇、庫裡すべてが全壊し、往時を偲ぶ姿もなく、地震のすさまじさを改めて知らされた」と語っており、今後とも積極的に支援活動を行ないたいとしている

真宗

震災対策委員を四人増加

●**本願寺派** 先の第二百四十一回臨時宗会（北條成之議長）で設置をみた阪神大震災対策委員会（委員長＝笹昭観総務）の第一回委員会が九、十の両日にわたり本山宗務所で開催された。なお、同委員会の委員は当初宗会議員十一人、被災地の兵庫、大阪両教区の委員六人の十七人であったが新たに九折舜壽、菅義成、出口湛龍、村橋吉重の四宗議が委員に加わり、二十一人に増加された。この四氏は九折、菅の両氏が兵庫教区、出口、村橋の両氏が大阪教区の選出で各氏とも被災教区出身。当初、委員の選出にあたり、宗会議員の委員の数が多く、しかも、宗議委員の全員が僧侶議員各会派の会長、幹事長と門徒宗会議員会の副議長経験者で占められ「宗会対策を考慮しての人選か？」との批判の声も聞かれていた。今回の増員で委員の宗議と非宗議の比率格差はさらに広がったが、被災地関係者が十人となったため、復興対策に最も大切な「現場の声」は反映されやすくなったのではないかと？

▽仏教婦人会の母と慕われる九條武子女史の六十八回目の命日にあたる七日、仏教婦人会総連盟（堤昭子会長）による如月忌法要が本山御影堂で営まれ、約一千二百人の仏婦会員らが参拝したが、法要後の恒例のぜんざいの接待は中止された。法要に先立ち、檜本浩道組織教化部長が兵庫県南部地震の被災者への救援にあてるため中止したい旨の説明をした。

光華が被災学生に見舞金

●**大谷派** 光華女子学園（阿部恵年理事長、京都市右京区）は兵庫県南部地震で被災した学生、生徒の学費を減免するなどの支援措置を決めた。対象は同学園の教職員、大学、短大、中、高校の新入生と在学学生。家屋が全壊した学生、生徒は受験料と入学金を免除、授業料も前期分を半額にする。家屋が三分の一以上損壊している場合は受験料を免除、入学金を半額にするほか、前期分の授業料も四分の一免除する。さらに、家屋の損壊はないものの、水道、ガスなどライフラインに被害を受けた学生、生徒には新入生も含めて各々、二万円を見舞金として送る。同学

園の被災した在學生は十数人になる見通し

▽同学園中、高校の生徒会はこのほど、阪急電鉄西京極駅で募金活動を行なった

婦人会初の支部長会議

▽大谷婦人会（大谷綾乃会長）は三月十六、十七の両日、京都市下京区の大谷婦人会館で初の支部長会議を催す。議題は平成十一年四月二十四日から三日間の日程で営む蓮如上人五百回忌について。大谷婦人会館改修費五億円を含む総額六億円の予算と募財法などを話し合う。出席者は全国約二百支部の支部長らで約百五十人の見通し。初日は会員物故者の永代経法要を勤めた後、上場顕雄大谷大学講師の法話を聴聞。総会と分科会に分けて五百回忌について意見を交換するほか、本部事務局（沢田秀丸事務局長）は三年間で一万円の遠忌募財を会員に依頼する。二日目は山科の蓮如上人廟など京都市内に点在する上人ゆかりの旧跡を巡拝。沢田事務局長は「事務局からの申し出ばかりでなく、支部と本部が手を携えて円成できるように全体の意見を聞いて進めていきたい」と話している。また、兵庫県南部地震の見舞金も各支部で持ち寄ってもらい、宗務所内の災害対策本部へ寄託する計画だ。なお、三月末の幹部中央講習会は支部長会議開催のため、中止する

讃岐うどんの炊き出し

●興正派 七日、本山宗務所で宗門長期計画委員会（委員長＝秦昭宏宗会議長）が開催された。同委員会は当初は昨年十一月の定期宗会で日野淳勝内局から提案された長期計画の“青写真”を叩き台として計画の原案を作成するための協議を行なう予定であったが、一月十七日に発生した兵庫県南部地震により阪神教区（佐々木義孝教務所長）の兵庫一組から三組の十五ヵ寺が被災するなど緊急の案件が生じたため、この日の長期計画委員会では「阪神大震災対策委員会」（委員長＝日野宗務総長）が設置され、被害状況の説明や対応策についての協議に大半の時間が割かれた

▽席上、現地の対応委員会の窓口役を務めている兵庫二組組長の井原照寿・勝光寺住職（神戸市須磨区）と一組組長の瀬口円爾・真光寺住職（尼崎市）の両氏が組内寺院の被災状況について詳細に説明、続いて、各教区の教務所長から教区内での義援金の集計についての中間報告が行なわれた。この後、各委員会から今後の対応策についての提案や意見が出されたが、賦課金の免減措置など具体的な対応については今後の検討に付されることになった。なお、華園真暢新門と日野宗務総長ら本山、宗派の要職者は被災寺院に全て足を運んで既に納金されていた各寺院の賦課金の八〇%を見舞金として贈っている

▽また、この委員会の翌日、最も被害が激しかった神戸市長田区の橘女子高校で西讃教区（漆間慎海教務所長）による被災者への讃岐うどんの炊き出しが行なわれた。同教区で長田区ではまだガスなどライフラインが回復していないため、うどん五百食分を真空パックに詰め、また、具の葱や蒲鉾なども包丁で切ってクール便で現地へと送った。当日は漆間教務所長と宗務所職員三人、それと被災した地元兵庫二組の寺院の坊守十人が接待に当たり、高校で避難生活を送る約四十人の人達と近所の人達に温かい本場の讃岐うどんを振る舞った

▽この炊き出しは今月の十五、十六の両日にも行なわれる予定。八日には用意した五百食の讃岐うどんでは足りず、何人かには止むを得ず断わりを言わねばならなかったそうで、今回は一千五百食から二千食を用意する。炊き出しに当たった宗務所職員の吉村浄信氏は「僅か二時間ほどの間に五百人の人達にうどんを提供しなければならずゆっくりと話をさせて頂く間もありませんでした。しかし、温かいうどんに皆さんが本当に嬉しそうに舌鼓を打っておられる姿にこちらも疲れを忘れ奉仕させて頂きました」と語っていた。

新宗教

被災者支援募財活動展開

●**大乗教** 今回の大震災では幸い、阪神間在住同教団信徒の死亡・重傷者や家屋倒壊など、深刻な被害はでなかった。同教団ではこのため、被災信徒援助ではなく、一般被災者対象の災害義援金募財一本に絞り、震災の直後から名古屋市熱田区外土居町の総本山や中部地区を中心に所在する各教会で募金活動を展開。今後も、救援物資ではなく義援金というかたちで第二弾、第三弾の募財活動を実施し、信徒から集めた浄財を公的機関に寄託する方針。また、三月二十六日に総本山で開催される各部の合同総会で信徒によってバザーが開かれるが、今年の売り上げは全額、被災者義援金に充てる予定という

(c) 1995中外日報社(デジタル化：神戸大学附属図書館)